

第 11 回 銚田・行方・潮来市ごみ処理広域化総合検討委員会

1. 開催日時 平成 26 年 10 月 10 日（金）午後 2 時～午後 3 時 30 分
2. 開催場所 行方市役所北浦庁舎 2 階第 1 会議室
3. 出席者 委員 17 名、事務局 3 名、コンサルタント 1 名
4. 検討委員会での協議

議題 1. 広域処理時のごみ出しのあり方について 議題 2. その他

第 11 回協議では、上記議題のそれぞれの内容について、事務局より委員に対して説明し、協議・検討を行いました。各議題の内容と協議・検討結果の決定事項について以下に示します。

議題 1 広域処理時のごみ出しのあり方について

前回までの検討委員会での協議で、びん・缶・ペットボトルのごみ出しの方法（個別収集 or 混合収集）や施設での処理方法（処理ライン 1 本 or 複数）について結論を出せなかったため、今回も継続検討し、今回の協議で最終的な方向を決めることとしました。

今回の検討委員会では、びん・缶・ペットボトルの処理について

- ・ 3 市の現在の状況
- ・ 広域処理時の方法について、施設規模・将来の展望からのアプローチ

を説明し、委員からの意見を求めました。

びん・缶・ペットボトルのごみ出しについて、事務局からの提案事項は次のとおりです。

- 1) 資源ごみの分別収集及び混合収集については、リサイクル意識の高揚やコスト削減など双方にメリットがあることから、どちらも全国的に普及している方法であります。現状において、3市それぞれの施設で処理されたびんとペットボトルは、「公益財団法人日本容器包装リサイクル協会」を経てリサイクル業者へ引き渡されておりますが、収集方法や処理の違いによる品質の優劣はありません。
- 2) 3市において、将来的に人口減少・高齢化が急速に進むことが予測されるため、今まで以上に合理的・効率的なごみ処理体制を構築していく必要があり、いかに住民側の負担を少なくできるかについて配慮する必要があります。
- 3) 高齢化を踏まえ、確実に行うことのできる分別が望まれます。
- 4) ワンウェイびんは、施設でカレット化した方がコスト面で有利です。
- 5) 処理物の均一化のため、機械による処理の方が有利です。

この提案を踏まえて協議した結果、今後進む高齢化や想定される資源ごみ量及び資源化に関する処理費用などから、びん・缶・ペットボトルの収集方法は「混合収集」とし、これにより施設の選別ラインは1本とすることとしました。

また、ごみ出し容器は「コンテナ」による排出を基本（「袋」による排出も可）とすることとしました。

■検討委員会としての最終的な方向性

ごみ出し容器		ごみ出し方法		収集方法		施設での処理
	↔	一括して排出	↔	混合収集	↔	選別ライン：1本 (処理過程で分別して資源化)

議題2 その他

次回の検討委員会第12回協議は、平成26年11月12日に実施することを確認しました。

以上